

諸家系譜

正

村
上

太政官文庫			
三三九	三三九	三三九	和書門
冊	架	函	號類

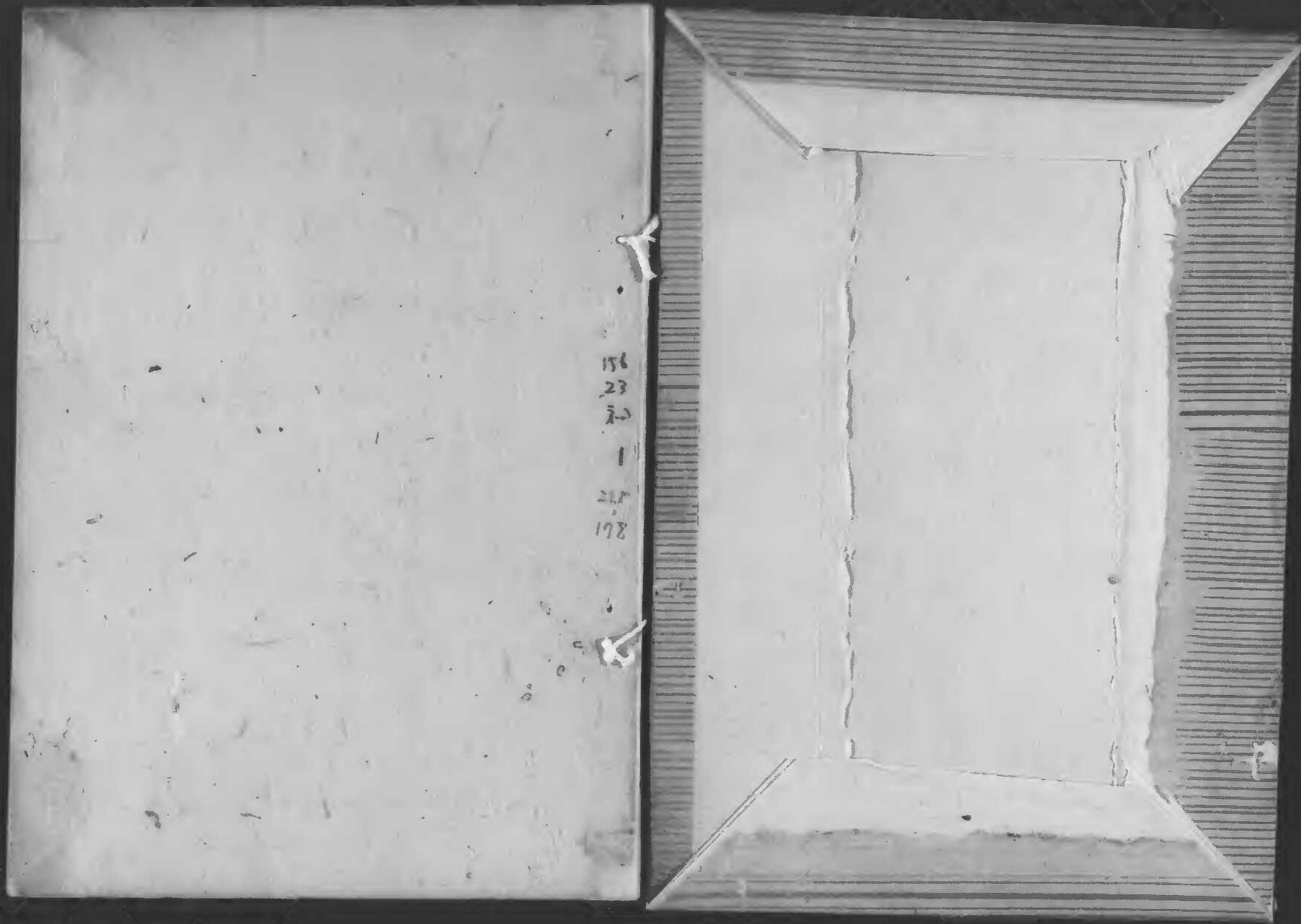
共二百廿五冊

內閣文庫			
三三九	三三九	三三九	和書
冊	架	函	號類

共八十七

內閣文庫	
番號和	32649
冊數	225(178)
函號	156 23





156
23
20
1
217
198

源姓

源俊

九之内上之文字

源俊

三菊桐

村上

源俊

九之内上之文字

村上三右衛門正高忠順

云仲

市之助次郎

菅井 探南庵

大星信子之増廿

源俊

村上七郎正吉二男

貞母

源俊之腹心之通女

貞妻

伊藤九郎重光之女

菅井之妻平生

延喜入三年九月五日父三右衛門

延喜六十年八月加賀方系忠次八日御見

3

之後源氏之者乃 源俊 曾孫 人出生也

元禄元年十月五日 源俊 御書 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

也

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

同年三月十日 源俊 御書 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

源俊 御書

元禄三年三月八日 源俊 御書

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

源俊 御書 上之 相果 上之 相果

正保

二席

母伊豆氏女

北原條

延享元年六月七日死享年七

春白守子也信房所出也

水馬

正保

母上白

由信房所出也 母信房所出也

信房 水馬所出也 母信房所出也

信房 村上所出也 母信房所出也

信房 村上所出也 母信房所出也

信房 村上所出也 母信房所出也

4

正保七年三月廿七日入京

正保九年三月廿二日入京

正保十一年二月廿六日入京

正保十二年三月廿九日入京

正保十三年二月廿九日入京

某日守子也信房所出也

母上白

母上白

村上水馬所出也

母上白

正保所出也

母上白

正保

信房 村上所出也 母信房所出也

森母 村女

大田青海津彦 和國 三子 清宗 二男

白母

森母

妻 吉文 水馬 正満 女

元久 仁孝 中 生 田 彦

富一 二 申年 二月 十日 卒 享年 五十五

富一 三 乙未年 六月 三日 葬 入 前井 井 内 行 石 宛

富一 六 壬午年 三月 十日 卒 入 山 邊 法 善 寺 合 葬 田 邊 山 内 宛

富一 十 乙未年 九月 十日 卒 入 山 邊 法 善 寺 合 葬 田 邊 山 内 宛

富一 十一 乙未年 六月 十日 卒 小 松 岡 山 内 山 邊 法 善 寺 宛

中川 小 治 二 月 廿 日 卯 辰 辰 辰

日 年 七 月 中 日

善 後 事

以 知 九 乙未年 二月 廿九 日 自 急 乃 人 候 命 出 大 田 山 内

5

大 田 山 内 山 邊 法 善 寺 宛 葬 命 出 大 田 山 内

出 入 山 邊 法 善 寺 宛 葬 命 出 大 田 山 内

入 山 邊 法 善 寺 宛 葬 命 出 大 田 山 内

乙未年 四月 十八 日 卒 命 出 大 田 山 内

日 十 三 日 卒 命 出 大 田 山 内

善 後 事

乙未年 六月 十九 日 卒 命 出 大 田 山 内

日 十 二 月 廿九 日 卒 命 出 大 田 山 内

乙未年 三月 七日 卒 命 出 大 田 山 内

乙未年 二月 十日 卒 命 出 大 田 山 内

乙未年 八月 十日 卒 命 出 大 田 山 内

乙未年 三月 十日 卒 命 出 大 田 山 内

善 後 事 志 願 書

女
 母 龜
 母 龜
 母 龜
 母 龜

山流 水馬

母村 上氏女

山一 弟十郎

叔 上同

某 在八所

母 上同

母 上同 實有村 山流 元英女

母 上同 實有村 山流 元英女

6

女
 西九 山流 元英女
 母 上同

女
 西九 山流 元英女
 母 上同

母 上同

女 龜

女 龜

女 龜

村志摩
 未詳
 〇

心 源
宣保 成三
三月

系譜

申四月廿三日
申勅定

修和
あまの九指
田

少
村

源氏

村上

村上天皇第七御子具平親王二十一代
後醍醐村上天皇四代義光土代常陸公
義利孫村上天皇野分義明嫡男

幕之故

鏡棟

家之故

九上字

智之故

一澤深

村上上野分義明嫡男

義武

三右衛門

母不知

妻不知

年月日何有之出生位系不知

爲赤中御言家之領和子七百石山城關
伏見御孫進子口一者兼任自考秋野左
刀一腰賜一秀秋死去以後

神君於山城伏見御孫之孫在出雲郡七百石
則丹波國赤田郡之白澤原在丹波柳津

河内三箇國一也郡八之 伊丹之役中知
古之百也之我武志願村上水師之為義考
多中是也伊丹之役相相知一之在為義考
伊志

後河大綱言後中彼屬酒和八千石云下
至4則後府中御代之伊丹之守力二十萬
同心百人云如伊丹也

大綱言後伊生害一後復信國權云此於
相續信云伊丹之信云此云年齡華也
云也

某

村上孫十郎 磯部丹波國志小川是也
恒化中伊丹氏 磯部武藏守於伊丹
云見取伊丹氏

某

村上孫十郎 磯部武藏守於伊丹
兩志之因伊丹氏云伊丹氏於伊丹氏

某

村上雲母 磯部武藏守於伊丹
伊丹市之伊丹氏 磯部武藏守於伊丹
伊丹氏於伊丹氏 磯部武藏守於伊丹

某

村上平藏 磯部武藏守於伊丹

義房

六三三

母 不 能
喜 亦 能

年月日何事言出生住年不能

村上三左衛門義武云昌中烟言秀秋住後

昌國末也公戦一市

神君有軍使一功方從秀秋感状口一徳賜一

秀秋死云以後丹波新保津村に於て十

八歳云云病死也云云死後云云

女子 伊勢國司貝教御軍人高維一入喜丹

某 波不同新居後病死也云是嶋氏一外

威也村上是菴 破新 抄中出入防長眼
弟が三條院出法居後病死也

某 村上貝中張船丹波赤山崎云云

云云言以之而居在法施是控二十人頼大

政友少陣共相勤云後皇御岸和四云

住後日別病死

女子 村上云云富家云云富家云云村上孫平而養子

成初或言在多少是丹波云云因云云石代友

和初於因云云赤山居後病死也

女子 大島信左云云赤山居後云云云云云云云云

右位法橋院主知法白河病歿

女子 石川八重 妻 八重乃父丹波赤山引籠

病歿 詔所病歿

女子 村上茂房 妻 茂房乃父丹波保津村引籠

病歿 詔所病歿

義成

市右衛門

母 五和

妻 久保子三郎女

年正月十日 仍方 出生 住 山形 郡 新 田 町

村上六之進 義房 六男 父六之進 義房 浪
人 後 大 坂 町 代 助 後 傳 中 吉 家 住 傳 中
吉 死 去 又 下 浪 人 住 於 福 井 夜 堂 文 二
主 享 年 六 月 廿 九 日 病 歿 住 年 終 不 能
葬 死 於 夜 堂 寺 葬
法 名 清 空 淨 雲

圓形出家早也

女子 川端古重 房 妻

師光

文左衛門

母 大原重隆の女

妻 村田家貞の女

年月日何有言由坐位不不

村上市より義成三男

常憲陸振師代

文昭云陸振師代甲府中府和

寛文三年甲府中府代後追奉前より

刀江右出言百後又々

寛永元年申年二月老衰仕病あり

形より廻臨長言 師光三後陸師代

寛永七年九月廿日病死仕日某地

前寺岡

法号村登了寂

義信 勤也

蓮心坊 出家早也

義次 村上妙六郎後十三郎

師國 村上茂物

女子 楠方重書

師監 村上貞助
行卷 源光寺住職

師親 村上貞行

養母 村田貞貞女

実父 坂田貞貞家系中進上貞行

実母 不知

妻 村上文室の女

村上文室の師光孝の初名に云々
楊田原及甲府中代品印守云々

時

富永元申年春文村上文室の孫多下
並組より云々

同年酉二月甲府市秋四ノ後森山
而地長石原田に月三校梅津也此上書

孫入云々

同大正年八月西丸市山内市山内市
組より云々

宣統六年十月三死 云々云々

同十八日二月四日云々云々
云々云々云々云々云々

元文二年六月五日於河川橋下
 少時入江 仰身因六月廿日卒於
 病死 其葬於寺前
 法名 郷野 登 了 光
 女子 村上 仙 子 春
 師則 村上 仙 子 春
 正覺 早 世

師秀

法名 仙 子 春

14

法名 村上 仙 子 春
 実父 仙 子 春 母 仙 子 春
 実母 仙 子 春 母 仙 子 春
 孝 村上 仙 子 春
 年月日 仙 子 春 母 仙 子 春
 法名 村上 仙 子 春
 法名 仙 子 春
 元文二年六月五日於河川橋下
 少時入江 仰身因六月廿日卒於
 病死 其葬於寺前

此係後世文村七位之遺言也
 同日未年四月十日
 日本六月十日
 八月十日
 十月十日
 十一月十日
 十二月十日
 正月十日
 二月十日
 三月十日
 四月十日
 五月十日
 六月十日
 七月十日
 八月十日
 九月十日
 十月十日
 十一月十日
 十二月十日

女子村上高師書

師高 仙如

母 村上高師書

書 永濟日向書

惟信源孫仲代
 寬延二三年一月十日
 三月十日
 四月十日
 五月十日
 六月十日
 七月十日
 八月十日
 九月十日
 十月十日
 十一月十日
 十二月十日

伯耆殿百代後

富曆十三年七月也其所用正作有女又
吾之弟也

明和七年六月十日病死在父前
手取目病死於同日並通出受
手取目病死於同日並通出受
定之重利也所日向古中後水動其
云明和七年七月十六日二條
其作年並通出受其後其後
其後其後其後其後其後其後
其後其後其後其後其後其後

因和元年六月七日病死在父前
八弟於千申通十三年愛弘其年
葬法石園墓貴貴

女子 小十人松川村名師事離師後以
師累不偏也其後又以其離師他
其師其師其師其師其師其師
其師其師其師其師其師其師

女子 御印丸大真其後其師

養女 拂方以合其師其師其師其師
實者河原師校浦依的女

母石社

惟收

百一

母弟日向... 弟法九...

喜... 西飛... 人長... 同... 能... 全... 祖... 與... 國... 節...

中... 年... 并... 在... 年... 月... 亥... 女...

實... 志... 也... 高... 之... 所... 屬... 及... 五... 節... 法... 奉... 唐... 家... 弟... 女...

母... 能... 足... 及... 奉... 申... 法... 奉... 丹... 次... 女...

宣... 德... 七... 年... 二... 月... 九... 日... 申... 年... 十... 二... 月... 九... 日... 既... 終... 初... 後...

後... 明... 之... 所... 代... 安... 昭... 八... 申... 年... 十... 二... 月... 九... 日... 既... 終... 初... 後...

此... 處... 之... 言... 亦... 知... 未... 百... 歲... 之... 壽... 也... 以... 為...

因... 法... 主... 意... 以... 致... 之... 後... 父... 也... 知... 仰... 候...

天... 照... 以... 在... 年... 二... 條... 在... 禮... 寺... 於... 三... 年... 物... 取... 任... 外...

父... 子... 同... 言... 之... 臨... 自... 而... 多... 於... 同... 日... 並... 一... 通...

以... 是... 言... 之... 亦... 知... 未... 百... 歲... 之... 壽... 也... 以... 為...

以... 限... 亦... 升... 豐... 祿... 也... 仰... 候...

天... 照... 七... 年... 二... 月... 九... 日... 既... 終... 初... 後...

宣... 德... 七... 年... 二... 月... 九... 日... 既... 終... 初... 後...

如... 多... 仰... 候...

同... 八... 申... 年... 二... 月... 九... 日... 既... 終... 初... 後...

相... 續... 也... 竟... 仰... 用... 五... 節... 一... 日... 既... 終... 初... 後...

或... 收... 法... 仰... 候...

女子

下 果 村上景平 甲

女子

養女 即高之上師公之御妻

實者西九景坊之佐師宗親殿

景道 村上店之師

女子

右之通以産之以上

18

高田の拾遺 本國信儀 生國成身

浮瀬川浦に於て天少路より少き産也
鎌田相模守組は塚の存在し地を自領也

寛政十一年三月

村上百之助 印 丑

玉源

先祖書

未三月廿九日
湖川書局

修和源氏
八百又拾貳番
□ ○

甲府勸業
湖川書局
村上勸業

と家 上念ゆくは右柳の丸五柳は

慶長公の平一長州藩藩中侍

日平岡ヶ原 中侍侍

台徳公上りの御江戸長 中侍侍

年号月日ありあかゆ御江戸藩藩中侍侍

その長重藩藩中侍侍

東徳公下ゆ中侍侍 御江戸藩藩中侍侍

元禄元年 六月大坂御江戸藩藩中侍侍

三月終上徳公山廻郡長岡村 御江戸藩藩中侍侍

中侍侍

寛文元年

大徳公上りの御

寛文三年 正月九日 御江戸藩藩中侍侍

兼御江戸藩藩中侍侍 御江戸藩藩中侍侍

21

長尾山 御江戸藩藩中侍侍

信成 長尾

母 弟 加

妻 中川 御江戸藩藩中侍侍

元禄元年 正月九日 御江戸藩藩中侍侍

寛文元年

大徳公上りの御

寛文元年 正月九日 御江戸藩藩中侍侍

西徳公上りの御江戸藩藩中侍侍 御江戸藩藩中侍侍

小徳公上りの御江戸藩藩中侍侍 御江戸藩藩中侍侍

田村中侍侍 御江戸藩藩中侍侍 御江戸藩藩中侍侍

元禄元年 御江戸藩藩中侍侍

寛文元年 御江戸藩藩中侍侍

蘇子夜雷風山移佳寺 号生座海心

信矣

在り 信在席

母 中川氏女

妻 長田一子氏女

丁卯乙酉年所生

寛文三年十一月廿九日所生 自然後 志願之 田代氏也

賜聖旨

寛文四年十一月

其後 幸り 日りに 詔 聖旨 あり 幸り あり 也

三年 日りに 詔 許入 日りに あり 也

元禄三年十一月十九日

英日 あり あり あり あり あり あり

至真 中川氏女

22

幸り 日りに 詔 中川氏 あり あり あり

平在り 信新 海心

信一

母 長田氏女

妻 蘇子夜 細見 あり あり

年月 日りに 詔 あり あり

寛文八年十一月廿九日

英日 あり あり あり あり あり

信範

在り 信新 海心 平在り

母 長田氏女

信光

母 長田氏女

某 神宮長女

後妻の一人

辛卯の月より名無月

貞享元年三月三日十八日入大妻長女

元禄九年三月十日入大妻長女

元禄十三年三月九日入大妻長女

再行の月より名無月

信胤

以信胤市 信左衛門 兄方

母上白

某

七中

母上白

某

元八年

母上白

某

陰平 久

母 水原氏

信胤

信胤市 左衛門

子母 水原氏

実父 信胤市

実母 長田氏

妻 信胤市

辛卯の月より名無月

元禄十三年三月十日入大妻長女

元禄十三年三月十日入大妻長女

元禄十三年三月十日入大妻長女

元禄十三年三月十日入大妻長女

寛保三年七月十八日
寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

女 了 理 文 年 奉 素

母 上 日

法 院 山 席

母 如 善 氏 女 年 奉 素

寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

某 年 奉 素 天

母 上 日

法 院

英日寺 号 山 法 院

若 母 上 日

寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

某 年 奉 素 天

法 院 山 席

寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

寛保三年七月廿九日

英日寺 号 山 法 院

寛保三年七月廿九日

女 中 川 三 九 席 奉

母上内
在方

吉良 中宿成女

吉良 堀内 田中宿成子二男

吉良 堀内 吉良同世女

吉良

寛政六年十月在方吉良中宿成子

寛政六年九月在方吉良堀内田中宿成子

寛政七年二月十日在方吉良堀内

寛政七年二月九日在方吉良堀内

吉良 堀内 吉良堀内行

吉良 堀内

25

吉良 堀内

吉良 堀内 吉良堀内

寛政七年一月十日在方吉良堀内

寛政七年七月十日在方吉良堀内

寛政六年十月十日在方吉良堀内

吉良 堀内 吉良堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

吉良 堀内

天保七年三月廿三日
 天保七年七月廿三日
 天保七年九月廿三日
 天保七年十月廿三日
 天保七年十一月廿三日
 天保七年十二月廿三日

天保七年
 天保七年

天保七年三月廿三日
 天保七年七月廿三日
 天保七年九月廿三日
 天保七年十月廿三日
 天保七年十一月廿三日
 天保七年十二月廿三日

26

天保七年三月廿三日
 天保七年七月廿三日
 天保七年九月廿三日
 天保七年十月廿三日
 天保七年十一月廿三日
 天保七年十二月廿三日

天保七年
 天保七年
 天保七年

女 女

妙喜女

妙喜女

右通國府の御上

高七百石 武藏守 上野守 山内信濃 甲府守内進中納言

高野三季三季二有

村野三季三季二有

五

21

信和天皇 村上行儀 信和天皇

信和天皇 貞純親王 信基 信仲

信光 曾位下 権守 大收 御前 不談

信親 西宮位下 大守 吉田 辰吉 信成 吉田 辰吉

信賢 五女九 八尾 信成 吉田 辰吉

信信 伊予守 信成 吉田 辰吉 仲宗 信成

信隆 武藏守 信成 吉田 辰吉 信成 吉田 辰吉

信村 河内守 信成 吉田 辰吉 信成 吉田 辰吉

めくれず

美日 左之権頭 兼信 初人

師貞 後醍醐帝位 師國 中務少輔 信長 中務少輔

信長 中務少輔 信長 左之権頭 信上 左之権頭 信長 左之権頭

村上 信長 信上 左之権頭 信長 左之権頭

信長 信長

初之権頭任

天文二十三年六月廿三日 信長 左之権頭任

信長 左之権頭任

村上 信長 信上 左之権頭

28

申三月二日 信長 左之権頭任

信長 左之権頭任 信上 左之権頭

系譜

武源新 系譜

信長 信上 左之権頭

信和源氏

村上氏

之祖村上彦為常原公長次郎
宗賢妻村上氏女信隆之孫
信隆歿出有故外戚之姓村上
相原宗茂相州之北兵衛曰記
燒火仕為細川氏

家之改

九三四年正月
又七三同

習之改

拾三

善之改

九三四年正月
又七三同

29

村上彦為常原公長次郎

常原

村上彦為常原公長次郎

女之改

善之改

年月日五和四

常原公長次郎

之祖村上彦為常原公長次郎

信隆歿出有故外戚之姓村上

相原宗茂

同十三 己卯年 二月廿九日

五和坊寺地中月定院葬
法名常持院 聖金哲存

帝命

村上三幸より出立帝 信長有也

母 幸女

喜 幸女 幸女 幸女 幸女

年月日 幸女 幸女

元禄九丙子年八月十三日

帝憲云下 印の御目見

同十二年七月九日又源武定遠より
山崎信村村能伊中入

30

有任云 所代元文元年三月三日因是城より

一節 幸女 幸女 幸女 幸女

一節 幸女 幸女

信長云 所代元文元年三月三日因是城より

一節 幸女 幸女

同年六月七日源通中入より

酒井誠中より入

同年八月三日源通中入より

酒井在御所より 信長利勢より

改名

同元申年八月十日福元年より

女子
字前日英号長樹院後屋植友傳貞
田村^{田村}剛吉^{剛吉}次子^{次子}達喜

常宗
村上常宗^{常宗}の娘^娘雅行

常宗
常宗^{常宗}の娘^娘信忠^{信忠}女
常宗^{常宗}の娘^娘喜宗^{喜宗}二男
常宗^{常宗}の娘^娘美光^{美光}女
常宗^{常宗}の娘^娘常倫^{常倫}女
常宗^{常宗}の娘^娘信照^{信照}女
常宗^{常宗}の娘^娘信忠^{信忠}女

有徳公^{有徳公}の代^代に常宗^{常宗}の娘^娘信忠^{信忠}女^女の御^御成^成り

常宗^{常宗}の娘^娘信忠^{信忠}女^女の御^御成^成り
日^日永^永三^三月^月九^九日^日於^於此^此處^處に御^御成^成り
元^元文^文三^三年^年三^三月^月九^九日^日御^御成^成り
即^即日^日御^御成^成り

寛^寛延^延三^三年^年三^三月^月九^九日^日御^御成^成り
常^常宗^宗の娘^娘信忠^{信忠}女^女の御^御成^成り
日^日永^永三^三月^月九^九日^日御^御成^成り

但入

信之代官戸六之三年十月十二日苗升内局
立紙之命西丸長尾宗家作有之松年
右有之命及之信後

同九之卯年十月十二日西丸長尾宗家
作有之西丸長尾宗家及之信後

同十庚辰年十月十二日

竹尾長尾山内長尾宗家 作有之堀田長尾宗家

後之信後長尾宗家及之信後

後明之代官日土寺三年六月

大御所御薨御一

同年八月三日表所長尾宗家及之信上
河内之信後

同十三三年十月十二日西丸長尾宗家
作有之松年右有之命及之信後

同廿六己卯年七月二十日長尾宗家及之信後
信後長尾宗家及之信後

同八卯年十月十二日信後長尾宗家及之信後
信後長尾宗家及之信後

女子 村上三希長 常三希長

常福

三希長

室曆元辛未年二月八日

後明公御代 吉文三希之 需者所 在子部 師

以初之西戌年二月四日 吉文三希之 需者所 在子部 師

吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳丁亥年二月廿六日 吉文三希之 需者所 在子部 師

吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳戌年二月廿九日

御月日

日巳辛卯年二月廿九日 吉文三希之 需者所 在子部 師

吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳辛卯年二月廿九日 吉文三希之 需者所 在子部 師

支取入

安永二癸巳年二月廿九日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳戌年二月廿九日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

日巳乙未年九月十八日 吉文三希之 需者所 在子部 師

大指徳方那合名百三十三ノ下ノ之世嘉
七般ノ御度

日六西暦年一月十日也西暦年八月十日
並ニ通口及神ノ下ノ之世嘉ノ御度
ニ御度也

御前ノ御度 上云日年八月十日
國事御前ノ御度也御度也御度也
水師御前ノ御度也御度也

日年九月十日也日年九月十日也
川ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也

御目見ノ御度 御前ノ御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也

日年一月十日也御前ノ御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也

日年一月十日也御前ノ御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也
御前ノ御度也御度也御度也御度也

松平國治書及書後

日七代書年一月右田用三程又出三在

日年十二月廿五日申用三序在部修序在

以如

日年九月廿五日在

仰目見戶印書

上念日年四月二日在 右在田用

部令令評以如 仰目見戶印書

部令印後令程我如我仕日定即日倫

足一書令列在書行以令到辰辰

以如令仰目見戶印書日年四月二日在

別辰令或我時辰二如載仕

日年八月廿五日在 右在田用

因及之尾也中而五知公如序及仰免

之如令之在母以如我三印後書令在

右在田用村上子如令之 右在田用

右在田用日年十月日右在田用

右在田用一月令之如我如我如我如我

右在田用日年一月令之如我如我如我

右在田用日年一月令之如我如我如我

右在田用日年一月令之如我如我如我

同年三月廿六日...
 九月廿日...
 日六甲寅年...
 戶田三郎...
 他何部...
 元交卜...
 日年七月...

女子

村上三郎...

女子

日向...

女子

日向...

女子

日向...

石 石
石 石
石 石

石 石
石 石

石 石
石 石

石 石
石 石

石 石
石 石

未三月 廿九日
石 石
石 石

石 石
石 石
石 石

系譜

石 石
石 石

石 石
石 石
石 石

先祖書

備和 備氏姓

先祖備前中洲言秀秋在村上
所立備前守備和次守備人
丹波國赤松郡備前村住居

幕之段 九上ノ字

家之段 九上ノ字

直武

直武

母 直武

37

妻 直武

出雲國赤松

元禄十一年正月廿九日長田守備人

一守備人守備人 守備人守備人

一守備人守備人 守備人守備人

六日守備人守備人 守備人守備人

守備人守備人 守備人守備人

下

守備人守備人 守備人守備人

守備人守備人 守備人守備人

守備人守備人 守備人守備人

病起後之三日迄歸家上藥
後在覺成院

水直

母 丙申年

春 丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

39

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

丙申年正月廿三日

宝曆二年二月廿七日舟上及

作有長年命

後明後孫即代家水乙甲年日克

御仕奉也信仕浪拾取淨原仕御

舟上及及二十七年五節の角年

浪之及花淨原仕

安永七年三月廿日西九の度及

此用達也 作有之田原巨原の度及

日八三年

考卷原種之能 荒南の年一 流山書在合

是 作有之松平周信の度及

此より傳久之節より能之乙甲年十月

其九日

蓮之度孫の度及乙甲年 作有之

田原之度及也 浪原五節の度及

老長仕の年命

乙甲年十月廿日舟上及

作有之舟上及

作有之舟上及乙甲年十月廿日舟上及

舟上及乙甲年十月廿日舟上及

乙甲年十月廿日舟上及

幕代右口方信右衛門

豆明

幕七席

右幕七年八月廿七日
幕七席 信右衛門

尚行

幕八席田代八席尚久
幕七席 信右衛門
幕七席 信右衛門
幕七席 信右衛門
幕七席 信右衛門
幕七席 信右衛門

41

三月二十二年二月二十日

直ぐ

幕三席

又三席

母 何所文より正信女

妻 幕七席 信正女

右幕七年八月廿七日

幕七席 信右衛門

幕七席 信右衛門

幕七席 信右衛門

幕七席 信右衛門

天保六年三月、物原左衛門
 臨月、左衛門、同日、在、病、死、候、事
 以、七年、三月、七日、臨、月、下、葬、事
 名、在、母、氏、名、及、一、所、候、事、在、此、所、候、事
 久、三、所、候、事、在、此、所、候、事
 天保八年、八月、十日、由、此、所、候、事
 天保七年、九月、十日、由、此、所、候、事
 天保七年、九月、十日、由、此、所、候、事
 天保七年、九月、十日、由、此、所、候、事

兼之

全書 又及七年

母 島根正武母

天保二年六月十日

天保二年六月十日、由、此、所、候、事
 天保二年六月十日、由、此、所、候、事
 天保二年六月十日、由、此、所、候、事

天保九年三月十日、由、此、所、候、事
 天保九年三月十日、由、此、所、候、事
 天保九年三月十日、由、此、所、候、事

光
源

先祖書

末
三月
卯
日

修
正
書
○
村
上
大
學

43

中興書

村上大學

眞房
白
紙
紙
半

五
日

宣
統
十
年
八
月
十
六
日
宣
統
十
年

宣
統
十
年
三
月

宣
統
十
年
三
月
五
日

信和源氏

村上

信和天皇六代長江位下多田少將
河内守教信十三代一孫村上信隆也
於衛信濃國川中作五伯

家之致

九月四日申上之文字

智之致

六月三日九月內桂殿年

希之致

大中皇上一上之文字下二
十六番菊

信和源氏

義之

天文中於信濃國與海所 小吉角
幸義合戰時幸義討死信州中
於邊三神別上於信信合告事也
天正元年四月廿九日於河内守原
於吉原崎之病死今墳墓信州垣種
那坂守君村上山邊原也 三十一
法石日記

義利

左衛門

信州川中流

義勝

左衛門

信州川中流

義重

左衛門

母 名部

妻 名部

天文七年

45

義勝信州進去好為假人兼之也下
手於勤勞度内是任其安松信州
正別之仕仕存之宛在也
之為元康平年七月之別信州人
川舟中流の友友之師古人中地内進
之之事家後仕右五人之者致打之
信州川中流之師古人之信州川中
吉也之小事師古人之強之者之信州
之川中流之師古人之信州川中流
之川中流之師古人之信州川中流

中ノ折致 隆ノ及云云 隆ノ及云云
何 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云

神ノ名ノ稽ノ 上ノ及云云 隆ノ及云云

隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云
隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云 隆ノ及云云

同日乙亥年二月廿日之刻長孫也分錢

神君也伊采幣乃由中人於極處

上之云々々々々々々々々々々々々々々々

伊采幣乃由中人於極處

同奉九月六日由山山山山山山山山

大井川皆之御付之云々

伊采幣乃由中人於極處

上之云々々々々々々々々々々々

同日乙亥年渡册田中口全錢之云

是日也

同九年乙亥年二月廿三日全册之云

伊采幣乃由中人於極處

同十乙亥年渡册之云云云云云云

伊采幣乃由中人於極處

上之伊采幣乃由中人於極處

伊采幣乃由中人於極處

伊采幣乃由中人於極處

伊采幣乃由中人於極處

神君也伊采幣乃由中人於極處

伊采幣乃由中人於極處

上三宮一者退席... 上使... 一日仕... 名... 侍...

神... 上使... 軍... 秋... 名...

今及於九子表... 附... 治... 守... 了...

天... 任八月廿六日

印別

...

三月抄末或於大浦康成下書所

四月十九年卯年二月五日病死

上冊藤林意阜寺上藤原久若長

吉春

海幸り 和少長

母 五和

喜 五和

永治九丙寅年八月日五和生

天西十二甲申年四月九日尾冊長久子

此合錢時天一日五和生

49

同年同冊藤江新修一高之廻社

之和元乙卯年四月五日林和生

藤原之乙卯年四月七日藤和生

藤原士年四月和生藤原之進藤原

藤和元和生

抄末在藤原之乙卯年二月十日

所和上乙卯年五月時

上之乙卯年五月時和生

多和生乙卯年五月時和生

藤原藤原之乙卯年五月時和生

承平以是等一有南河之帝也村寺
 ありて其の事記之危事御之
 富其夫也我今則一其退還老之
 仰威方々移度也人御傳并
 上之御信一上御書多示洲村住也
 先子治上母娘并候事任同之事
 上之御書一上御平御付之御事
 ありて也

寛永八年 未年六月十日 陸奥州
 上毛 柳北六柱六上列 鶴林竟泉守

50

葵

法名 恭 溪 善 安

吉長 海行 知名之友

母 嘉

柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系 柳系

寛永八年 甲寅年 三月廿六日 申

中根 菅原 市 市 市 市 市 市 市 市 市 市

大猷公 柳目見之 右之藤村 弟也 於
 左 柳系 弟也 於 村上 河行 佳場 也

仁政五年

果

仁政五年

吉

夜

母

五和

喜

五和

天正八丁丑年出仕

日十七己丑年月日五和

神前中祈願文 乙未年正月五日五和

奉長十己丑年十月望月山崎宮原御地

没収了長門門修自中水部御地

國府村田村也其村三和祈言五和

三和祈言 仰事自中

頂戴仕只今五和祈言

重由二七丑年十月十日五和祈言

店六付言五和祈言六和祈言

五和祈言 仰到物頂戴仕只今

五和祈言 仰到物字

上総國佐貫庄大村吉成様
以下百石程石五斗余困窮人此致
六百石程石五斗余年令杖仰早
令之知所者也

寛永二

三月三日

仰判

村上吉成様

三月廿五日五和久由書上書合仰判
三月廿五日大湯吉成様上書上書合仰判

52

吉成様上書

同其己卯年三月廿七日病死之様三斗仰
國形致致士府村信吉守上書
限本堂使院天祐吉成心

女子

御書上書

竹田吉成様

吉久

吉成様

養母

實父

吉成

竹田吉成様

家母

妻

抄本式部省御書

対上御書

大正十一年八月

山田重信

長六、壽、吉平、山田國、生

寛永元、甲子年、月、日、和、能、知、印

台使公ト

仰自使任日本大御書下御書入

云、作、月、切、或、百、倍、多、百、倍、多、百、倍、多

日十、癸、百、年、二、月、七、日、並、口、語、動、百、石

云、百、金、國、終、局、知

同、十、日、丁、丑、年、三、月、八、日、養、父、吉、信、御、印

云、百、金、日、年、月、日、和、能、知、印、元、中、上

53

女子

平保之四年三月先師之入一日リ元
中使、作、月、切、或、百、倍、多、百、倍、多、百、倍、多
云、後、大、善、源、河、中、出、地、之、年
云、安、田、幸、介、年、二、月、八、日、初、北、口、十、一
前、日、年、年、年、立、印、院、御、印、全、家

抄本式部省御書

山田重信

若忠

若忠

若忠

母

抄本式部省御書

山田重信

めくれず

書

大日本書紀卷之六

出雲國志

皇永土 日武年六月廿日

皇安日壽卯年久吉久

修武 卯年六月廿日

皇永土 日武年

皇有云 卯月見

皇永土 日武年二月六日

卯年 卯月見

皇永土 日武年六月廿日

卯年

14

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

皇永土 日武年 卯月見

徳島県 伊予

同七乙未年三月五日卯申申後時
此後より一六二箇年申子年同日申子時迄
年月拾後より申子年申子時迄申子年
申子年申子年申子年申子年申子年申子年

伊予

天和二壬戌年六月五日申子時申子年
申子年申子年申子年申子年申子年申子年
六拾九年余二乙未

貞亨元年甲子年六月十八日酉時申子年一

55

小石川慈恩院号松老院一筆全志

西尾彦彦書

公收新在乃松老書

女子

日三ツサ
義愈

印長信

長吉書

印の節師

大の書中根

小石川慈恩院

母 喜

云井花子書

大生市在乃定輝書

寛文五年壬寅年十一月十二日印子生

延享六年壬午年六月九日印子生

歳有云々

御自見使小

久享元甲子年七月三日又產一
 子於室以過下子之百六拾二日
 為子孫之名也取之曰一萬念下
 又中在子之曰地之百六拾二日
 取之曰百六拾二日萬念下合解
 解月少在信之曰地之百六拾二日
 其乃因信之曰地之百六拾二日
 元德七年十月九日相上國信
 一 解月日年上日在之六拾二日
 入酒井右衛門忠政

同十丁丑年上河國郡信之曰地之時
 日有月年上日在之六拾二日
 池邊村之信之曰地之時

元德九年十月十日信之曰地之時
 元德九年甲辰年十月十日信之曰地之時

信信之曰地之時

信信之曰地之時

日十八庚辰年正月十日信之曰地之時
 信信之曰地之時

義全

信信之曰地之時

母 日 上

久享元甲子年七月十二日父喜忠と母於
之西石分初。作身高村右喜忠同喜
七浦能村と之と子部而之と云。

女子

此後香出御長り云
於浦能村右喜忠

義方

正徳
初合序
池居園山

母

大井能と云と云

大生市女乃喜忠

妻

新り云云

浦能村右喜忠

正徳之三戌年六月廿日江戸人云出也

57

喜忠の父廣成平は月二日入義命の七
旅を過取武り多と云と云御能取及
云御能村右喜忠丹後守り云云
同平三月廿二日江戸自能取云云
云云

有徳之御自見也

同十六年亥年八月十八日西九石浦戸

云 作身同平三月廿二日市女

作身

日十八 亥 丑年三月十六日辰

信公 信公 信公 信公 信公 信公 信公 信公 信公 信公

元文六庚申年十二月二日 信公 信公

寛保二年庚申年六月十日 信公 信公

白菊一徳 信公 信公 信公 信公

延享二乙丑年九月

御事九卜 信公 信公 信公 信公

同日 丙寅年六月十三日 信公 信公

寛延元戊辰年二月十日 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

十七日 信公 信公 信公 信公

云上等 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

信公 信公 信公 信公 信公 信公

改定日未八日 仰見御用向 方之任
仰見御用在日未八日 方之任 仰見御用
五部 仰見御用在日未八日 方之任 仰見御用
仰見御用大出御用 仰見御用

宝曆六 西五年 壬子月 廿五日 御用御用

有社公 仰見御用車位 仰見御用御用

右之 仰見御用大出御用 仰見御用

大献公 仰见御用御用 仰见御用御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用
仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用
仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

59

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

仰见御用 仰见御用 仰见御用 仰见御用

上聞由信と信少とありて在四家
以故信と信少と家と在とあり
上之と信少と信少と信少と信少と
天保二乙酉年九月廿二日病死七拾
六日多とありて相院開山因あり

女子

秩本信常室書

某

如

早世

早世

信生女房室書

女子

早世

義徳

信生

如八節

大業

後信下

如

新室如

信生女房室書

某

信生女房室書

信生

同人二女

寛延二乙酉年三月廿二日産生

宝曆十二癸卯年己月十八日産生

後明公

御目録

同十二癸卯年九月六日

孝恭公山名門下系也

萬曆十一年

明和八年辛卯年二月五日
叙多力多力松平國直
後領事回至德子多能也

安永三年甲午年九月十日
筆裁 上院五部友物
日六丙申年六月十日

上院五部友物
日六丁酉年九月十日

於所之山名

海村 上院五部友物

天保二年乙亥年二月十日
贈与式 上院五部友物

昨後江州江川御禮

同式乙巳年六月十日
牧所御中及之御後大御所

同八月申年七月十日

御所之御後及之御後
御所之御後

實政(臣)至享平二月十日

同平八月十九日 栗山 傳月日奉

上月言松前表為 仰用 不 幸 言 了 後

用 上 言 松 前 表 為 仰 用 不 幸 言 了 後

松前表 仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

仰用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

傳用 不 幸 言 了 後

回入 泰 五 年 正 月 二 日 終 皇 室 院 設
松 平 伊 呂 波 仰 承 下 第 四 初 城 米
申 諭 日 年 十 月 七 日 瑞 府 日 八 日 終 所 處
重 慶 頭 也 列 在 申 用 先 之 由 十 上 一 也
湖 日 上 日 終 日 終 申 皇 室 院 瑞 府 一
仰 自 見 仰 承 日 三 日 終 日 終 仰
已 意 瑞 府 日 終 仰 承 日 終 仰 承 人
十 後 一 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
右 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承

仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承
仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承 仰 承

以用之及... 得個之... 站... 日... 上... 同七... 65

心... 乙... 右... 乙... 心... 65

元禄四年正月七日
元禄四年正月八日
元禄四年正月九日
元禄四年正月十日
元禄四年正月十一日
元禄四年正月十二日
元禄四年正月十三日
元禄四年正月十四日
元禄四年正月十五日
元禄四年正月十六日
元禄四年正月十七日
元禄四年正月十八日
元禄四年正月十九日
元禄四年正月二十日
元禄四年正月二十一日
元禄四年正月二十二日
元禄四年正月二十三日
元禄四年正月二十四日
元禄四年正月二十五日
元禄四年正月二十六日
元禄四年正月二十七日
元禄四年正月二十八日
元禄四年正月二十九日
元禄四年正月三十日

元禄四年正月
元禄四年二月
元禄四年三月
元禄四年四月
元禄四年五月
元禄四年六月
元禄四年七月
元禄四年八月
元禄四年九月
元禄四年十月
元禄四年十一月
元禄四年十二月

元禄四年正月
元禄四年二月
元禄四年三月
元禄四年四月
元禄四年五月
元禄四年六月
元禄四年七月
元禄四年八月
元禄四年九月
元禄四年十月
元禄四年十一月
元禄四年十二月

五段

日十代平年二月廿二日... 藤原氏少孫天

女子

新羅... 佐藤若丸... 右宮... 左宮... 藤原氏

藤原

藤原氏... 藤原氏

義部

左文

母

中書... 藤原氏... 藤原氏

69

喜

西院

美坪... 藤原氏... 藤原氏

如... 藤原氏... 藤原氏

實... 藤原氏... 藤原氏

御目

日九丁... 藤原氏... 藤原氏

藤原氏... 藤原氏

女子

早世

東

早世

女子

南阿義雄尼令初生

石母三人在永升進改師生屋女

義雄

大孝 初名信次 子中 孝力
義雄 初名

母

中安

指生八在乃心數女

孝孝

萬里二套三年二月廿日誕生。

68

實元九套三年二月廿日也此院書台同
誤傳也去改市之乃於通智孝子
五 傳身以和玉源之身市之乃在萬里
子於唐日年十月廿日於通智
日中成年八月十日也父元信三男也
順治元年正月廿日也於通智
傳身日年二月廿日也父元信三男也
實元九套三年二月廿日也此院書台同
誤傳也去改市之乃於通智孝子
五 傳身以和玉源之身市之乃在萬里
子於唐日年十月廿日於通智
日中成年八月十日也父元信三男也
順治元年正月廿日也於通智
傳身日年二月廿日也父元信三男也

長生月一也

御目見立の年八月廿五日

世に及ぶ節は至る御節の如く

御節の如く御節の如く

御節の如く御節の如く

御節の如く御節の如く

女子 早世

母 新女

忠篤

忠篤

忠篤

忠篤

69

母 新女

女子

母 新女

右通少座

高子六拾

高子六拾

高子六拾

高子六拾

安政上七年十月

村上大字

三七

丸源

三ノ下

系譜

未三月廿日
津田山崎三郎

90

津田源氏
七橋之番。右田長太郎。

右田長太郎の系譜
村上長太郎

陳姓

村上

家之次

智次

九之内上之文字

菊桐

九之内上之文字

村上三左衛門の御書之由

安貞

左衛門 如名竹之師

女 幸子 幸子

貞吉之御書之由

元禄元年三月十日御書之由

元禄元年三月十日御書之由

元禄元年三月十日御書之由

元禄元年三月十日御書之由

元禄元年三月十日御書之由

元禄元年三月十日御書之由

安信

如名竹之師

安父 五郎 村上元五郎

安母 如名竹之師 如名竹之師

安 二九 如名竹之師 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

安信 如名竹之師

信都

如名竹

母 坂氏女

元壽二年正月廿九日 生 母 坂氏女
作事 中 坂氏女 生 平 坂氏女

實多田氏女

實定元年八月廿九日 生

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

實元十二年七月廿九日 生 入川氏女

實和八年二月廿九日 生 入川氏女

實和八年二月廿九日 生 入川氏女

安徳 實多田氏女

母 坂氏女

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

母 坂氏女

72

女 實元九年二月廿九日 生 入川氏女

母 坂氏女

安徳

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

實和八年二月廿九日 生 入川氏女

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

實和八年二月廿九日 生 入川氏女

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

實和八年二月廿九日 生 入川氏女

實元九年二月廿九日 生 入川氏女

母 坂氏女

正徳
若夫...

若夫村古...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

93

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

若夫...

毛

毛

未
三月

法
二月
〇

後書

村上三十一郎

〇

村上三十一郎

書附録

江代目 因出山 宗隆 之 通

江代目 宗隆 公 國 宗 隆

一 西妻女

松平公 宗隆 年 妻

一 日領男

柳 山 宗隆 年 妻

安田 三 平 二 月 三 日 宗隆 在 地 海 邊 宗隆 公
宗隆 柳 山 宗隆 年 妻 宗隆 公 宗隆 公

一 日女

宗隆 年 早 世

元文 元 西 辰 年 九 月 八 日 宗隆 公

宗隆 公 宗隆 年 九 月 八 日 宗隆 公

75

一 日領男

村 上 宗隆 年 早 世

寛保 三 年 三 月 二 日 宗隆 公 宗隆 公

宗隆 公 宗隆 年 早 世

一 日女

宗隆 公 宗隆 年 早 世

宗隆 公 宗隆 年 早 世

一 日女

宗隆 公 宗隆 年 早 世

宗隆 公 宗隆 年 早 世

宗隆 公 宗隆 年 早 世

一 日女

六代目 因出山

一 宗隆 年 早 世

一 女子

宗隆 公 宗隆 年 早 世

宗隆 公 宗隆 年 早 世

高倉村之...

村上水馬正虎書

一女子

一女子 早世

天保三癸卯正月三日死号...

前日...

一女子

一人

一女子 早世

天保八戊申年二月八日死号...

前日...

一女子

早世

天保六甲寅年二月五日死号...

76

一男子

村上常之進

一女子

一人

一孫女

一人

男也...

右...

三月

村上三十郎

之往書

家之致九之因上之文字

普彼 有綱

善之致九之因上之文字

何之往書之因上之文字

右傳之因上之文字

一 之往書 村上三三之正

之傳二三平一月之在二八之令之在

中細之子上之因上之文字

古右右之傳之P之三之在之在之在

77

慶長四之三平七月之在之在之在

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

之在之在中之類之火之射之射之射

選公物於其力之能傳者之常想為海島
欲方進路中日政府一備中國之民之而
收歸之在法稅二十便之如於今日
先子德之士亦中人一其作之
百後之民一其是或出之其及輝進
少如之內信人下之日有亦似之
中國之推命之日亦於進之其後也
中國之民也一其也其也

積取錄下 仰有之日何也中德事出入
後德士之分相

下之日中國之民也其也
為之日其也其也其也其也
其也其也其也其也其也
連下之日其也其也其也其也
其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也

管理錄 仰有之日何也中德事出入
別村上之日其也其也其也其也
其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也

後小舟... 中山川... 人可人... 坊... 運... 了... 上... 物...

慶長九年...

抄紙...

帝曰... 八... 二... 大... 日... 田... 慶長十九... 市... 活...

此知方後有人投すかそ人衆を獲て送す
仕制の由國の舟楫を無服の者未だ
無の物の方とて彼表記一捨去後
上味を改めたる二年即天七年一
徳及三老とて中角の地原悉款す
殿の在り別あり少如智の殿の日月
十日相柱又後市の方板念伊等
尸體を降し公方丹波波願無
而く如智の殿尸體を別とす
物之下紙板字書及て高の智とて

高の伊等とて一建の如自の殿
為伊の市御代と存至りて款
治建御の地とて此の如く
月夜の遠き伊等とて中角の如く
之をりて治末とて此の如く
上智の如く伊等の如く
彼物とて伊等とて治末とて小
智の如く治末とて上智の如く
治末とて伊等とて上智の如く
伊等とて治末とて上智の如く
上智とて伊等とて治末とて

一 吾國の...
 ...
 ...
 ...
 ...

指し宛

台使院様 希仰之下 取存候

以 志願の... 取物...

指し宛

台使院様 伊賀守... 承知...

2

... 不...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

... 伊...

十方... 爲... 附... 馬... 馬... 上... 有... 有... 宋... 五...

惟... 龍...

常馬... 仲... 上... 上... 上... 仲... 寬... 廣... 日...

号道徽 市及合戒光修育中
及之院下集

古心志原 信書之

日 昭

抄本

村上山

一二代目

古正

村上山

母 蘇女

元和二年六月日
台使彦博 於後府 仰目之

84

因六申 五月
以切系部
寛永元年
御
上
日二
丹
伊
右

丹波國赤松郡山内村の石井長盛
村長百九十九歳にして中古白髪内より後
あふり合ふべきをいふに今世の
能令と云ふなり者也

寛永二 九月 村上三平年一

寛永二年三月一日の事
伊門之附也
改定之
市改名は

25

寛永九年三月三日の事

通世者
寛文四年三月三日

同日丹波由良川
日九百六十日
号家古丹波
瑞岩寺

一 正書 川原長盛

丹波國桑田郡山内村に在る松倉
村に在る松倉村に在る松倉
村に在る松倉村に在る松倉
村に在る松倉村に在る松倉
村に在る松倉村に在る松倉

寛永二
九月
村上三平年

寛永二の三月一日の事
伊門之河内守信之右奉旨
此の事
市改名は松倉村に在る

15

寛永二の三月一日の事
伊門之河内守信之右奉旨
此の事
市改名は松倉村に在る

寛文四年三月の事
松倉村に在る松倉
日九五年六月の事
松倉村に在る松倉
松倉村に在る松倉

二正書
松倉村に在る松倉

二正惣取
借書
日次男
村上三之助
日三男
村上山太郎

一 代目
村上山太郎

田 柳
大川

右に
正保元年
延宝元年
天明元年

正保元年
延宝元年
天明元年
村上山太郎
村上山太郎

天明元年
村上山太郎
村上山太郎

三正惣取

借書

日次男

松平三郎

村上三郎

日次男

松平三郎

村上三郎

一 代目

村上三郎

奴

柳

村上三郎

右

西條元申

信

此書入三言

此書入三言

此書入三言

湯

了

即

實

最

浪

日

子欲臨在長谷經私上場

日七事年九月より如 諸君等と
以能言 仰有 諸君等と
世也 諸君

日八事年十月 仰有 仰有

日九事年十一月より 仰有 仰有
新 諸君等と 仰有 仰有
今之及 仰有 仰有 仰有
上下 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有

諸君等と 仰有 仰有
日八事年 仰有

日九事年 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有
仰有 仰有 仰有 仰有

七月の如く政府は各縣に警察官
定額二三年二月の如くは府地
加増は採用の 任有は部は四月
九人増補せらるる

日之知事二月の如くは府地
加増
打取

日之知事二月の如くは府地
加増
打取
下は積りあり三月の如く 候

四地各後存ありし書状は多分
下は積りあり三月の如く 候
日之知事二月の如くは府地
加増
打取
下は積りあり三月の如く 候
日之知事二月の如くは府地
加増
打取
下は積りあり三月の如く 候
日之知事二月の如くは府地
加増
打取
下は積りあり三月の如く 候
日之知事二月の如くは府地
加増
打取
下は積りあり三月の如く 候

事も左に記し候へる所見申上候
日付七十九日付申上候
日付九月十九日付申上候
相上小島郡此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候

度有候事印也
申上候事印也

政令付日付申上候事
相上小島郡此中一町一戸に候

云知元申上候事
相上小島郡此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候

日付九月十九日付申上候事
相上小島郡此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候
又此中一町一戸に候

日乙三月十日

御前上 長崎

御前上 長崎 上陣

上陣 御前上 長崎

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎

90

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上 長崎 御前上

御前上

引年七月五日

自前年三月廿二日

同日

二月廿二日

二月廿二日

引院

引院

引院

引院

引院

91

日三多

名山

引院

引院

引院

引院

引院

引院

引院

引院

湯屋又は山崎の湯屋に 湯をくむ
新にそつと 湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ

心尚書 村之風 大岡忠直の湯屋

心尚書子 村之風 正伸

心尚書 湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
心尚書 湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ

心尚書 湯屋の湯をくむ

心尚書 湯屋の湯をくむ

心尚書 湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ
心尚書 湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ

心尚書 湯屋の湯をくむ 湯屋の湯をくむ

一 目録

母 弟 女

西岡 辰

村上 三郎 正春

元禄元年庚子二月十日 三ノ木 千石

二月の五日乙亥 三ノ木 千石 坊主 堀

お白もお黒もお赤も 坊主 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀

日 二 七 年 一 三 月 十八日 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

本年一月の三日 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

日 二 七 年 一 三 月 九日 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

堀 堀

堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀 堀

於市之於月之代地場

日之於年三月之於物之於年之於通

以書 伊免中書之於物之於伊之於

能之於

西傳之三年二月十九日之於物之於

能之於物之於物之於物之於物之於

之於物之於

宣傳之三年六月十日之於物之於

之於物之於 伊免中書之於物之於

因後之於物之於物之於物之於物之於

寬保元年五月三日廿九日之於

伊免中書之於物之於物之於

仙洞

山中丹後守之於

一西春書

日書

信來之於

日書

山中丹後守之於

安永三年六月十日之於物之於

伊免中書之於物之於物之於物之於

伊免中書之於

日書

村山守之於

寬保三年三月六日之於物之於

可智方 前日の上巻

西子女 山崎屋敷 松平倉七郎康平末

西子女 吾人早也

元文元西暦年九月十八日死す

只知英前日の上巻

日女 山崎屋敷 前平常吉品書

日女 山崎屋敷 治平左門義忠書

日女 山崎屋敷 武蔵守河津市之書

95

一六代目 姓綱

中平屋敷 村上甲斐守正階

吉良 備前 山中丹後守新佐母

宮方 亦女

寛保二庚辰三月十九日死す

後或新上場小千代松竹の御書

死す

延享二壬午二月十九日死す

周防守河津上り香入新治若狭守

若 市ノ二甲午上月死す

下作

日土三年十二月廿九日

仰代者之書出外之書付後二日取書之書

御申之書

以和三年正月五日

仰代者之書

日土三年十二月廿九日

仰代者之書出外之書付後二日取書之書

御申之書

以和三年正月五日

仰代者之書

仰代者之書出外之書付後二日取書之書

御申之書

以和三年正月五日

仰代者之書

日土三年十二月廿九日

仰代者之書

以和三年正月五日

仰代者之書

日土三年十二月廿九日

仰代者之書

日八卯... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

卯辰... 卯辰...

同日午時十月廿三日古國橋橋本用
二作有

日比多氏に日影の事申平りえ

仰社奉言 在等々 仰出の日平

六月廿二日古國橋橋本用修度出

用五部の手合取及け為三部の日平

七日日少之 仰社奉言 古國橋

為仰用所到之及大我御の事知下

日暇 仰出取 申度向

仰目見蒙 上意の日十り及等

98

日月十二日之影の表上刻至日月是日

被仰度之影未九日少影取表上刻之云

仰用五部の日八月十一日修度及等

日之修度仕申上之云 仰出取

九月十二日合取取付修三修能

仰社奉言 仰出取 仰出取

右仰用之極 仰出取 仰出取

古九日由宋修能 仰出取 仰出取

修能の事右仰用之及等 仰出取

日未上月六日古國橋橋本用

御書 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

敬 仰 御 書 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

用 取 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

仰 侍 承 以 困 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

右 御 日 月 十 日 日 光 仰 侍 承 以 困

日月正の初地後、日正の爲所任
 正殿の事、時りて四月の事
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用
 中任の事、用、中任の事、用

日月正八日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正六日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正七日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正八日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正九日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十一日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十二日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十三日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十四日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十五日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十六日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十七日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十八日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正十九日、中任の事、用、中任の事、用
 日月正二十日、中任の事、用、中任の事、用

有住院條

至心院條

心院條

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

即靈前

大綱

卷中

中卷

即靈前

御用裁
作月日三日月の上席

常憲彦彦

御重層上時文

有性彦彦

考恭彦彦 御細取 御重層

在御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

考恭彦彦 御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層

同九子年七月五日

考恭彦彦 御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

二抄 御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

御重層 御重層 御重層

少自威威於中... 用... 日
 松平右衛門... 及... 相...
 人馬... 之... 之...
 田... 之... 用... 日...
 六... 之... 武... 之...
 常... 上... 之... 右...
 此... 之... 之...
 安... 之... 之...
 之... 之... 者...
 五... 日... 九... 之... 之...

少府... 之... 日...
 於... 之... 即...
 日... 之... 用...
 之... 之...
 云... 之... 日... 之...
 之... 之... 用...
 七... 之... 用... 之...
 之... 之... 之...
 之... 之... 之...

卷之五
 即... 之...

日二三年一月廿二日右所用五部
以月付後二部

日年十二月廿日於

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院
伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院
伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

後山用五部(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

伊市山書院(伊市山書院)伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

伊市山書院

日二三年一月廿二日伊市山書院

以多古格、伊月日、山、
 上、新、
 我、向、
 川、
 二、
 以、
 實、
 前、
 心、
 村、

105

心、
信、

日、

村、
 也、
 三、

一、

村、

子、

母、
 村、
 村、

以、

以、

後明後下印 御月之住

書由六為年十一月十九日御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住

御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住

106

御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住

御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住

御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住
御月之住

後武之御遺詔

日年九月十八日詔

上

日二四年正月十日詔

日年三月廿二日詔

日年三月廿二日詔

日年三月廿二日詔

日年三月廿二日詔

日年三月廿二日詔

日年三月廿二日詔

107

日年七月廿八日詔

日年七月廿八日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

日年八月廿九日詔

甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...
 甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

甲子年八月十八日...

女子 早世

寛政六年三月十二日死号也
前日也

女子 此人終焉在昔

陸女 此人終焉在昔

右之通也

寛政六年三月
後香 村上三十一郎

109

申五日月十日
後香

子三十一郎
後香

系譜

毛源

合香紙
村上三馬

清和源氏

村上氏

六孫王隆基苗裔村上播磨公賴季後胤

義之致

入三ノ桐

尊之致

入三ノ桐

家之致

入三ノ桐

祐之致

九釵藤原

村上源氏府曆堂氏

義忠

110

義愈

義六

義常

南府中島郡番村上人義愈
義愈の孫義六の孫義常の孫義忠

義全

義三

義馬

母 義女

喜

大坂田原

信直

延喜二年三月廿一日

常陸院

御代村上源氏

信直の孫信常の孫信光の孫信成
信成の子信光の孫信光の孫信光

此後之人也

自甲申年六月廿七日

七月廿七日

八月廿七日

九月廿七日

十月廿七日

十一月廿七日

十二月廿七日

...

...

三

...

...

...

...

...

...

有住...

...

...

...

義和

北三郎

主馬

抄

古

菅田忠信書

書

坂城守忠信書

美之升左衛門尉

室ノ九己卯年九月廿五日

何部高直子

室ノ二己卯年正月廿日

有徳院御代書保九甲辰年九月二日

成式ノ書

112

作後北書信因日辰書

日十二丁卯年三月廿日

五 信有

弟

信和八年辰年二月廿九日

出火

渡明院御代書

出雲守

山ノ免

女子

松平圓房之長子信俊書在信部尾
若狭守之長子信俊書在信部尾
日六丁酉年六月廿六日信俊書在信部尾
小倉月島延隆書法在信部尾

母

右之側

義比

十一

吉女

信俊書在信部尾

信俊書在信部尾

實父

松平吉之助信俊

實母

村上一馬實父女

書

村上一馬實母女

後妻

日根連一之助實母女

後妻

南條一之助實母女

實父之妾信俊書在信部尾

元文元年十月廿五日信俊書

信俊書

信俊書在信部尾

信俊書在信部尾

市十部下家三番所法服被成因市十部
知愛姑言人たう下ま山 山十部所
姑名ふまの知愛姑子陽成市下 有義
有義所 取子陽成市知愛村上十部
有子五針製法成服被成因市十部
比日十部所通下 作有言十部
有子十部所通下 作有言十部
中使より年六月十日迄 業有義所
川後一
有義教有度有義所 日年八月

115

女子

丁九日迄起仕り年六十奉成在右方
法名秋安所法成つて夏

村上十部所通下
有義教有度有義所

義興

法成所 有馬

日根所 一有言有義

有義所 有言有義

有義所 有言有義

昭和六年六月廿九日

三原市伊原町二丁目新村

吉野山

渡辺隆雄

常陸代 宣夜七上卯年二月廿八日

麻生村 山内庄

富貴 山内庄

日十七卯年八月廿九日

吉野川 山内庄

山内庄 山内庄

46

昭和六年三月廿九日

富貴 山内庄

山内庄

日十七卯年六月廿九日

富貴 山内庄

山内庄

山内庄

義久 保元

田

山内庄

義和

母
 義高
 由吉
 早生
 右白子
 左白子
 女子
 母

義信
 大正九年三月十日
 天師原高之悟女

母
 女子
 右白子

母
 女子
 右白子

右之通以産り取上

三十一歳
 生山氏
 海原氏

三十一歳
 村上高身

系譜

心
徳田
家系

友系氏
六代徳田家系
○

徳田家系
村上家系

後東氏

洋原村志 下庄河合氏

是地河合又七西元... 惣領村志... 河合又七... 又四君... 村志氏... 洋原村志... 一後村志...

洋原氏 九三内橋

善治氏 右橋内橋

野々氏 右内橋

野々氏 友美

河合又七... 又四君...

山康 河合又七... 又四君... 河合又七... 又四君...

女 中川三郎... 友美

後東氏... 中山島...

延正二... 延正三...

入世... 入世...

西元... 西元...

常憲公... 常憲公...

河合又七... 河合又七...

又思之所及 仰之如誠 一幅 爲之

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西條三郎 八月十日 相模 相模原

西側

長女 尾介
母上白

享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日

正房

母中山氏女

享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日
享保十三年八月廿七日

121

女

新日子 号 江藤氏 仁 基 興 信

女

母 友 成 女

女

母 友 成 女

女

母 上 白

正房

母 友 成 女

享保十三年八月廿七日

美保河原屋記書

寛政十四年六月十日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

あはれ申年十一月廿七日

正平

122

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

おのり

寛政十二年十月

村上三郎 守



土月晦日
後田平市出

系譜

後田式
小六拾三番 坂田屋

む
後田
色紙元
後田

小三郎
後田平市出
村上三郎

夏永氏 澤尻村上 本姓河合

家之改細海之國橋 血之白梅障

帯之改 血之白梅

智段 夏美

正直

名田修友卿 村上丈之也 久部卿 友之也

母 世親重氏 中川立申主之也

妻 世親重氏之妻也 世親重氏之妻也

後妻 世親重氏 世親重氏之妻也

父 世親重氏 世親重氏之妻也

五能元平 八月九日生

之備六平 六月九日生

124

後田也及上平 在公揚或百後之第 師上改也 任事也
上意之改也 任事也

日平 二月九日 世親重氏之妻也 任事也

西九下 入市也 任事也 任事也 任事也

常憲云 西九月 任事也 任事也 任事也

日平 二月九日 任事也 任事也 任事也

常憲云 西九月 任事也 任事也 任事也

日平 二月九日 任事也 任事也 任事也

常憲云 西九月 任事也 任事也 任事也

常憲云 西九月 任事也 任事也 任事也

御筆 待奇樓 御書 一幅
 御筆 御色成山狂舞 九夜
 御筆 瑞成山系の巻 一冊
 御筆 御書 一冊

乙一色 御書

正徳二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正徳三二五年十一月十日 豊前守 藤原 長房 御書

正夜

万石麻一 徳友師

母 笑成女

妻 徳成女 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

女

母 哀成女

女

林如

母 上月

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

正夜 正夜 正夜 正夜 正夜

佳成

母 上月

西

元文三年八月五日 四月十日 佳園寺子

君母 君母女氏
室母 室母女氏

書 出陣後の御返書 松平左衛門定重女

信書 出陣後の御返書 松平左衛門定重女

信書 出陣後 松平左衛門定重女

書 出陣後 松平左衛門定重女

書 出陣後 松平左衛門定重女

書 出陣後 松平左衛門定重女

書 出陣後 松平左衛門定重女

書 出陣後 松平左衛門定重女

四

寛文元年九月五日 松平左衛門定重

寛文二年二月五日 松平左衛門定重

寛文三年九月五日 松平左衛門定重

寛文四年二月五日 松平左衛門定重

寛文五年九月五日 松平左衛門定重

寛文六年二月五日 松平左衛門定重

寛文七年九月五日 松平左衛門定重

寛文八年二月五日 松平左衛門定重

寛文九年九月五日 松平左衛門定重

寛文十年二月五日 松平左衛門定重

寛文十一年九月五日 松平左衛門定重

寛文十二年二月五日 松平左衛門定重

東

合

西氏

母上月

西八 成戸

母上月

西八 成戸 二月廿二日在子。西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。

母上月

西氏世系。

母上月

西氏世系。

母上月

西氏世系。

母上月

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

28

女

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

母上月

女

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

母上月

西氏

母上月

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。西氏世系。西氏世系。

西氏世系。

光

系譜

未土月廿九日
後野佐治書

若菜氏
四百三番
後野佐治書

130

西九尾彦書
後野佐治書
村上至殿

後系氏

村上氏 女流 河合氏

長布之段 稿

文照信梅子 稿

信房之段 稿

信之段 稿

河合又七之段

宮田信左之段二男

山柳

大田右平

村上長

岡信子

大野

母 山柳右平

中川三甫重之四女

妻 山柳右平

丹羽信長高信之如

延宝四年正月五日

大田右平 山柳右平

極向沙羅山と云ふは此の地は揚子百原を造るに因りて

故に自稱所と云ふは揚子百原に於て村を造るに因りて

世の上と云ふは自かより此の流村と云ふは此の流村

又思ふに西暦に入所し此の流村は此の流村と云ふは

常々之に初ら向所如く此の流村は此の流村と云ふは

此の流村は此の流村と云ふは此の流村と云ふは

此の流村は此の流村と云ふは此の流村と云ふは

此の流村は此の流村と云ふは此の流村と云ふは

那ノ内者...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...

...

132

...

...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

孫高成之痛夜梅景子
 号性高成亦能辨法考为忠仁

女 山崎高成之痛夜梅景子 孙高成之痛夜梅景子

母 山崎高成

正儀

母上内 山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

母上内

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

B3

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

山崎高成 山崎高成 山崎高成 山崎高成

甲子年五月廿八日... 母上日

為希... 母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

彼明... 母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

女... 母上日

母上日

正徳

母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

女... 母上日

三月廿五日... 母上日

三月廿五日... 母上日

母上日

利茶... 母上日

母上日

三月廿五日... 母上日

正名 九名 五反

昔如月

実父 長崎 古知屋市子 二宮

実母 長崎 松尾三郎 西寛女

妻 菅人 村上貞純 西成喜女

明治二年六月十九日 申

長崎 長崎 三月廿九日 長崎 長崎

三月廿九日 三月廿九日 申

実父 長崎 三月廿九日 長崎

実母 長崎 三月廿九日 長崎

妻 菅人 三月廿九日 長崎

明治二年六月十九日 申

長崎 長崎 三月廿九日 長崎

三月廿九日 三月廿九日 申

実父 長崎 三月廿九日 長崎

昔如月 村上貞純

妻 菅人 村上貞純

女 村上貞純

某 村上貞純

女 村上貞純

母 菅人

村上貞純

村上貞純 村上貞純 村上貞純

寛政十三年八月

村上
元

書月
後
延平十
年八月

書月
六百八
拾二番
。 延平十
年八月

元
後

中書
後
延平十
年八月
村上
元

小書信延源也三子所記

村上良安所

村上良佐

信之

村上良元能服

信通

号信眼之胤

母

小書信延源也三子所記
村上良安所
村上良佐

安信

母在方

母

日上

某

良佐

母 日上

女子

号信眼之胤

村上良安所
村上良佐

母 日上

信春良元

妻

松平常高之政房女

良父

林牛母之政房女

良母

良女

妻

村上良安所
村上良佐

信門

良元

母 三山少左衛門氏女

妻 四井中務少輔氏女
三山少左衛門氏女

昌信 村上元廣

母 日上

某 村上元吉

母 三山少左衛門氏女

信昌 村上良女

妻 三山少左衛門氏女

實父 町醫師
何而良女新花廣

138

實母 町醫師
何而良女新花廣

妻 町醫師
中務少左衛門氏女

女子 村上元吉

母 三山少左衛門氏女

信繁 村上元廣

心 孫女

女子 町醫師
何而良女新花廣

母 日上

女子 町醫師
何而良女新花廣

母目上

女子

秋島子

母目上

信子

淡子

母

町醫師
中島玄秀利子

右之親父村上良吉書信通
平年所子...
丁月...
...
...

139

...
...
...

三月

村上良吉
...

後弟姓

村上氏

...

...

...

...

...

...

義弘

...

國語 長川 負見 卷末 御家 記序
六十國音儀

至以神孫
義隆

号於後多叙
本字即位帝孫

後多院院行字 享福二年九月親是長史更守自言
年四移宗成

義隆
元徽

法橋佛通村上布庵者承元徽中甲天字中
也系於位在一竹雨村共中

元辰

法橋文明寺 馬庵上稱承於位任

元武

法橋虛心林 通玄上稱承於位任

元亮

法橋其智院上稱 慈雲院後多於在
系於位任也一 号謙益元隆之次子
年二月十三日死年八十有九

元亮
正信

正信母殿
生金山院

村上養純法眼

如 如
妻 如也

文照公御代 享福七年庚子年七月廿六日没

元文二丁巳年二月九日老穉院在

日三月日於通德院 作有美念福

以年二月十日午之病北年之知書原口等

英 只送後法眼書林院養德寺

信

中國書

村上良元法眼

母 取女

書 書書書書書書書書 松平次郎左衛門波房

文照之御代室取八事卯年十月十九日於知信

御目見上 作有

年取之節白月垂以九月十日十日

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

元文二丁巳年二月八日二

月之六日 壬午年七月五日

大御之振 仰七五 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

信通

号 昭眼元胤

延喜二乙丑年十月廿八日 昭眼元胤

大御之振 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

安信

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

良桂

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

女子

号 昭眼元胤

仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月 仰月

信春

号 昭眼元胤

村上良元

めくれず

信之者子之也此醫師林平母也

其母 松平源行の政房女

其母 源行女

其母 西尾方の源行女

信之 山代者之良之成西尾方之醫師也

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

其母 源行女

信川 村上良元

其母 源行女

其母 源行女

信川 村上良元

伏乞良醫醫師王勳於年之秋病年久
 至九月十日終或終十日午前九時終年
 十月十日終年終年之病死日年三月終年先
 終通終年之病書書書書書書書書書書書
 至終年終年終年終年
 病年終年終年終年終年終年終年終年終年
 終年終年終年終年終年終年終年終年終年
 終年終年終年終年終年終年終年終年終年
 終年終年終年終年終年終年終年終年終年

病年終年終年終年終年終年終年終年終年
 終年終年終年終年終年終年終年終年終年

信昌

村上良安

實三四醫師何氏良安書成

書成

書成

元吉

實成八面在年一九月其年終年終年終年

女子

源信良元書成

初書文良之成也書信從脚川とあるは
 一書里の書信を信守の書子信成
 實政九丁三年八月に於同年三月に
 形通と作す

日十戊午年二月書文良元病重
 一書信成八月に於形通信成作す
 取留りし書子一書信成を以て書文付
 一書信成信成川とありて信成日年三月
 大の書信成十年三月に成
 日十己未年八月に信成書信成書文成

日十己未年八月に信成書信成書文成

信成

村上良頼

信成

村上良頼

女子

三人

右通書信成

吉三石齋後

生也

洋風集

寶曆十一年十月

村上良安 夏

